

①救急搬送への貢献

■渡島・檜山の北部地区から函館市への迅速で安全な救急搬送路を確保

八雲町、長万部町、今金町、せたな町では、函館市までの救急搬送において、高速道路を利用。高速道路の延伸により、効果は拡大。森インターチェンジ**開通後1ヶ月で9件**の救急搬送で利用。

▼救急搬送イメージ



◆消防へのヒアリングより

函館市への救急搬送では、高速道路を利用します。国道と比べて信号がなく、まっすぐな道路であるため、患者さんへの負担も少ないと考えています。

また、国道では一般車の追い越しに手間取ることもあり、今回の森～落部インターチェンジ間の開通により函館市までの搬送時間が更に短縮され、非常に便利になったと思います。今後の延伸にも期待しています。

開通後1ヶ月で
9件の救急搬送利用
(平成23年12月1日～31日)

【参考】函館市への救急搬送件数（H21・道央道利用）

市町村	件数
八雲町 (旧熊石町を除く)	5 1 件
長万部町	1 7 件
せたな町 (旧大成町を除く)	4 7 件
今金町	2 9 件

資料：北海道開発局調べ

②津波被災時の復旧・復興ルートの確保

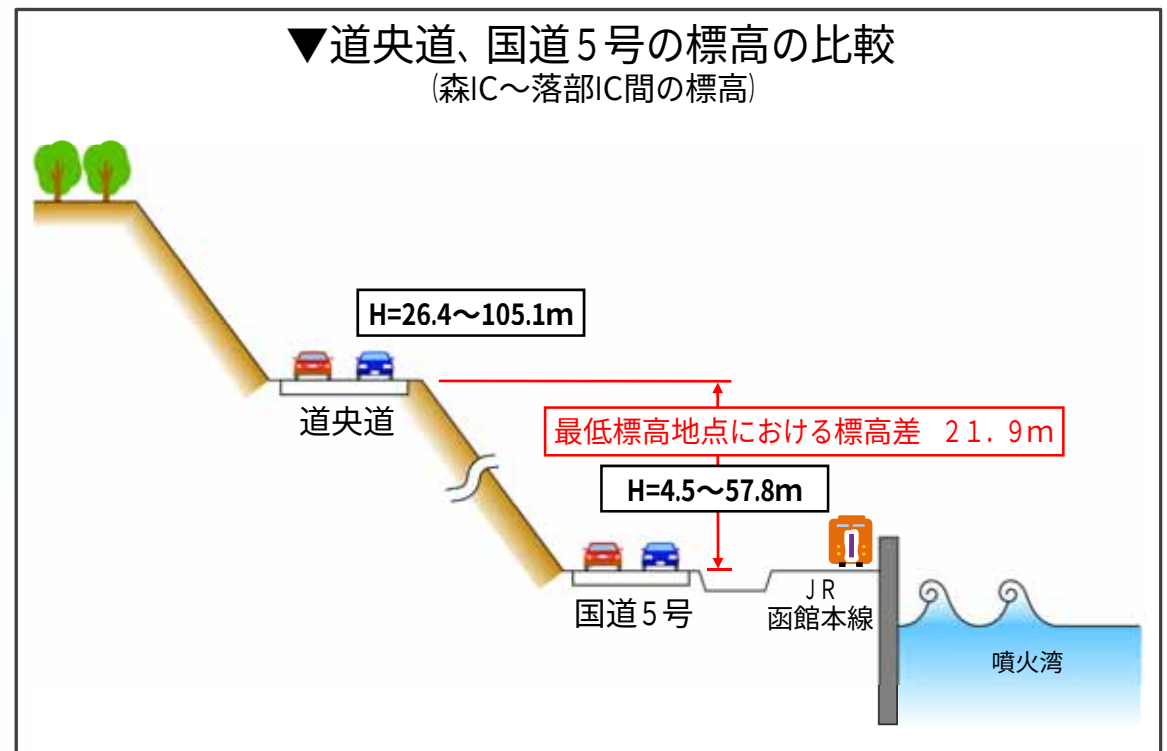
■東日本大震災発生時には、津波警報の発令等により、
国道5号はもとより、渡島半島沿岸部の国道の大部分が通行止め。

道央道は津波浸水の被害を回避し、
通行止めとなる国道5号に代わり道央と道南を結ぶ幹線機能を確保。

▼東日本大震災時の一般国道の通行止め状況



▼道央道、国道5号の標高の比較
(森IC～落部IC間の標高)



※標高はkm毎の値であり、実測値と異なる場合がある。